

道 路 愛 護 横 斷 記

交通部道路司監理科 小 貫 英 夫

1. 悪路対策

最近高速度自動車専用道路の建設が話題の中心となり、日本内地に就ても同様な計畫が進められて居ると聞くが、之を反面から見るときは現在の道路は到底自動車専用として其の效用を完ふする事が不可能であるといふ結論になるのである。即ち現在の道路の不備劣悪なる事は御話にならないのである。専用自動車どころか地方の道路に至つては馬車の通行さへ禁じてゐる様な始末で、専用自動車道など余りに飛躍的に行き過ぎでさへないかとも思はれる程である。にも係はず客觀的の狀勢は陸上輸送の輻輳多元的交通機關設備の不可欠等道路網の擴張には須臾も忽諾に附するを得ない次第であつて道路の飛躍的改良には益々力を致さねばならない所である。

此の方面の研究は別問題として、前述の悪路は悪路として放任して置くべきや否、悪路と雖も建設時には莫大なる巨費を投じて最善を盡したその結晶ではある。

此の自明の理を何人も余り關心を持たないのは如何した事か？

由來道路の維持修繕は彼の道路を新設する等の行爲と違つて既成物を維持するに在るが爲往々にして等閑に附され勝である。即極めて地味な仕事であり椽の下の方持の様にさへ思つて積極的に缺くる事は否めない事實である。新規な事人の目に立ち易い事をし度がるのは人情である、一體世人は礎石になるといふ氣持が極めて薄い、下積など、蔑視さへする輩もあるが下積は下積の使命があり天守閣になると

いふ進取の氣象も望ましい事ではあるが下積の石垣になる程の心掛は特に此の國に於て必要な事である。然るに事態は正に正反對の現象を示しては居ないか？

是では幾百幾千の道路網を張つて見た所で繪に畫いた餅でしかない。到底一般交通の用に供する道路本來の使命を完ふする事は出来ない。

然らば「果して其の方策如何？」である。知れた事どんどん維持修繕の費用を増して道路職員とか道路工夫を多數常置して専心之れに當れば好い位の事は決つてゐる。

2. 道路の效用

所が政府には豫算といふものがある。大體道路工事の如き巨額の支出に當つては根本的に道路費財源の途を講ずるの必要があるのであるが是は他日に譲るとして現在財源の無い場合は正當事由が相當あるとも豫算の増額といふ事は至難中の難であつて財務當局者は一様に眉を擧め元も子もなくなる程の削減を加ふる事を常としてゐる。

財源を考へぬ道路當局者も悪いが一般は未だ道路の效用を良く認識して居ないのではなからうか。

徹底してゐない連中になると「土いぢり」とか「泥屋」とか人間相手にせず土計り相手にしてゐると、悪口を云ふ。

西洋の文物といふと直ちに隨喜渴仰するが道路の改善といふ事には一向頭が向かないのである。道路が良くなれば便利になるだらう位にしか考へてゐない。所が次の實例を擧げて見るならば全く一驚を喫

するに違ひはない。

(1) 東京市は主要道路の舗装完成に因つて昭和六年度の維持修繕費は年額260萬圓の減少となり又此の爲自動車維持修繕費即ちガソリン消費量、車輪車體の修繕費節約見込約一千萬圓を減ずるといふ事である。

(2) 函館市は幹線道路の改善に因り次の如き効果を擧げた。

(イ) 従來年額十萬圓の砂利敷費用は全然不要となる。

(ロ) 米、薪、炭の一俵運賃平均十三錢であつたのが七錢に減じたので一人一ケ年36錢の節約となつた即ち人口十六萬として五萬七千餘圓の捻出となる。

(ハ) 従來必要の雨天用長靴は不要となり一ケ年平均60錢の下駄を節約したとするならば、之れは九萬六千圓の節約となる。

(ニ) 自動車用タイヤは従來三月で傷んだものが九ケ月の使用に堪える事が立證され、揮發油なども従來一千圓の収入に對し3百50圓を要したのに80圓に減少された。(以上實例檜崎敏雄著現代道路論より)

此の外有形無形の恩恵は幾多あるか測り知り難いのである。即ち道路費の財源を考へる迄もなく一應は其の效用のみに刮目するのであるが又道路事業程收支相償ふものはない事も知る事が出来るであらう。恐らく四・五年もして道路に投じた費用は償還されるに相違はない。況や維持修繕費に於ておや。

以上、大略道路の效用の實例を述べては見たが、元に戻つて、現在豫算といふ、しかも九牛の一毛にし、か満たぬ豫算に束縛を受ける以上、そんなに澤山の人員も置けないし、又資材も補はれぬとするならば、何か他の方策に思ひを及ぼさねばならない。

3. 道路愛護の必要性

凡そ道路の維持修繕の要諦は之れを我か子の如く常に座右に置いて手鹽にかけるといふ事にあるのである。道路を常に座右に置く者とは何人か、常に之れを使用する者に外ならない。換言すれば、沿道住民こそ、道路に最も利害關係の深い人々である。

此の點に着眼したのが「道路愛護運動」である。道路の愛護は併し道路職員や工夫の様に毎日、出て貰つて家事を疎かにするといふ事ではない。

昔は「道路愛護」といふと「不法難派」と稱して徒らに人民に苛酷なる義務を押しつけたものゝ様に思はれたのであるが決して其の様な暴政でもないのである。

難しい事ではない、其の名の如く道路を素直に愛護して貰えばよいのである。そして其れが沿道民の負ふべき義務でさへあるとも思ひるのである。

然し、一人の力は知れたものであるし、各個バラバラな行動も効果が伴はないから之れを結束してやつて貰ひ度い迄の事である。

4. 道路愛護實施要綱

そこで交通部道路司では今春全省公署の關係職員を集めて次の様な要綱を決定したのである。

道路愛護實施要綱

1. 方針

我國ハ建國以來道路ノ建設改良ニ邁進シ來レル所ナルモ既ニ建設改良ヲ了シタルモノニ付テハ今後其ノ維持管理ニ付一定ノ方針ヲ以テ臨ムニ非サレバ其ノ效果ヲ期待シ難キコト蓋シ當然ナリトス、仍テ政府ハ之等道路ノ維持修繕ニ付一層ノ努力ヲ拂フ必要ヲ認ムルモ他面道路ハ一般公共ノ利用ニ供セラル、モノナルガ故ニ之等道路ノ利用者殊ニ沿道民ニ道路ノ公共性ヲ認識セシメ且愛護精神ノ普及徹底ヲ圖リ更ニ道路愛護ノ能動的實際運動ヲ起サシムルハ刻下喫緊重要事ナリトス、仍テ茲ニ愛護運動實施要綱ヲ

劃定シ其ノ目的ノ遂行ヲ期セントス。

2. 要 領

1. 道路愛護團ノ結成

イ、組 織

道路愛護團ハ市街村ノ區域ニ依リ組織ス、但シ土地ノ狀況其ノ他ノ事由ニ依リ必要ナル場合ハ一市街村ノ區域ヲ二以上ニ分割又ハ二以上ノ市街村ノ區域ヲ併合組織スルヲ妨ゲズ。

ロ、事 業

道路愛護思想ノ普及徹底ニ努ムルト共ニ毎年春秋二回以上定期作業ヲ行フノ外解氷期又ハ水害等ノ爲臨時緊急ヲ要スル際ハ當局ノ指示ニ依リ又ハ率先出動シテ所要作業ニ當ルモノトス。

ハ、獎 勵 策

一ケ年ノ成績ヲ審査シテ優秀ナル團體ヲ表彰ス。道路愛護ニ關スル篤行者ニ對シテモ同様表彰ス。

2. 道路愛護聯合會及協會ノ設置

イ、組 織

一縣旗市内十以上ノ愛護團ノ結成ヲ見タルトキハ之ヲ聯絡統一シテ聯合會ヲ設置ス。

更ニ縣旗市聯合會ヲ統一シテ省協會ヲ設置シ、進メテハ道路ノ維持改良ノ側面機關ヲラシムルモノトス。

ロ、事 業

道路愛護團相互間ノ聯絡協調ヲ圖リ事業ノ圓滑ナル遂行ヲ期ス、尙道路愛護ニ關スル研究指導並調査(道路愛護團員ノ優良道路ノ視察等)ヲ行フト共ニ一面政府ノ道路事業ニ付建築ス。

3. 道路愛護週間ノ實施

毎年定期道路愛護週間ヲ定メ一般道路愛護ニ關スル精神涵養ニ資スル爲映畫ポスター掲示、道路品評會其ノ他行事ヲ行フ、殊ニ國民學校兒童其ノ他學生生徒ニ對シテモ協調セシムル如クス。

毎年ノ行事ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

3. 措 置

本運動ハ康德七年度ヨリ實施シ關東軍、協和會、治安部、民生部、滿鐵開拓總局等ニ聯絡協調方ヲ要請ス。 (以上)

即ち各街村に道路愛護團を作つて適當、夫々の作業に當つて貰ふ事にしたのである。

此の政策は目下郵政總局で貯蓄獎勵運動を實施してゐるが丁度彼れと同じ目標があるのである。即ち貯蓄する事は國家を利益する計りでなく自己をより利益する、道路を愛護すれば國家公共の爲計りでなく自分自身を愛護するのと同じことになるといふのである。所が道路に理解のない連中は此の自分の利益になるといふ事がピンと來ない。「國家には確かに利益になつたであらうが自分は一向に利益を受けた事はないし却つて作業したが爲に一日をパイにして仕舞つた」位にしか思はない。そんな手合はも一度前の效用論を繰返へして讀んで貰ひ度い。

又鐵道と道路との效用を比較して見て前者が遙かに後者に優る事もよくいはれる。所が事實は左様ではない。

自動車も馬車も無い世の中、一步外に出るにしても目標を失ふ世の中、こんな世の中に文化の進歩があるかどうか。一寸考へて見れば誰にだつて判る事も道路の恩惠の余りの偉大さに不感性を起してゐるのである。

太陽、空氣に對すると同様に——。

5. 本年度道路愛護實施要綱

前記要綱は現在七萬圓計りの豫算では到底一度にやりきれものではないから本年度は其の中次の様な事項を實施する事になつてゐる。

(1) 規定の制定

道路愛護は省が主管となつて實際にやつて貰ふの

であるから、之は省令として制定するのであるが、それには一定の準則案を示し、之れに則つた規程にして頂き度といふのである。

準則案次ノ通り

第一條 道路愛護ノ獎勵及道路愛護團(以下單ニ愛護團ト稱ス)ノ組織ニ關シテハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 愛護團ハ市街村ノ區域ニ依リ其ノ住民ヲ以テ組織ス、但シ土地ノ狀況其ノ他ノ事由ニ依リ必要トスルトキハ市街村ヲ數區域ニ分割シ又ハ二以上ノ市街村ヲ以テ一區域ト爲スヲ妨ゲズ

第三條 愛護團ヲ組織セントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具備シタル申請書ヲ街村ニ在リテハ街村長ヲ經由縣旗長ニ、市ニ在リテハ市長ニ提出其ノ承認ヲ受クベシ

1. 團 名
2. 事務所所在地名
3. 組織ノ概要
4. 作業區域
5. 團 則 寫

第四條 作業ハ定期作業ト臨時作業ノ二種トス。

定期作業ハ豫メ所轄縣旗市長ノ指示ヲ受ケ毎年二回以上之ヲ施行ス

臨時作業ハ解氷期水害其ノ他必要アル場合隨時之ヲ施行ス

第五條 作業ヲ爲シタルトキハ其ノ概要ヲ具シ翌月十日迄ニ縣旗市長ニ報告スベシ

第六條 省長ハ第四條ノ定期作業其ノ他必要アリト認ムルトキハ其ノ指導監督ニ任ズ

第七條 省長必要アリト認ムルトキハ道路修理用器具ヲ貸與スルコトヲ得

第八條 縣旗市長ハ道路愛護團ニ對シ常ニ其ノ區域内ノ道路ニ關スル愛護ノ狀況ヲ視察シ其ノ成績ヲ

考查スベシ

第九條 縣旗市長ハ一年間ノ各道路愛護團及道路ニ關スル篤行者ノ事績及成績調書ヲ作製シ順位ヲ附シテ翌年一月十五日迄ニ之ヲ省長ニ報告スベシ

第十條 審査ノ結果優良ナルモノハ省長ニ於テ之ヲ表彰シ又ハ褒賞ヲ授與ス

附 則

第十一條 本規程ニ於テ省ト稱スルハ新京特別市ヲ含ム

以下準則案を多少説明することとする。

・第二條に於て「住民ヲ以テ組織ス」とあるが義勇奉公隊青少年團等の實施事項にも道路作業の一項目があるから屋上屋を重ねる様なもので、何れか一にして貰ひ度いと申出もあつたが之れは丁度都邑計畫事業として道路事業を行ふ場合もある様なもので、一方は都市構成の統制を主とするに反し道路行政官署は専ら道路事業を行ふといふ目的の相違に似たものであるが互に相排撃するものでは決してないのであるから今日は義勇奉公隊員として明日は愛護團員として、作業をやつて貰ひ或は名目を同じくして従事しても別段支障はないのである。唯愛護團は愛護團としての目的をよく辨へ兩者緊密なる聯繫を保つて徒らに相反目し、又は屋上屋を重ねる様な運用に陥らぬ様努められん事が望ましい。

又小學生等も住民たる以上、大いに相應なる助力を願はしいものである。

第三條の承認は、之れに依つて其の地位を附與されるのは勿論であるが他方、道路は國の營造物であつて、管理者(支配者)の承認を得ないで勝手に道路をいぢられては困るといふ意味合もあり至極當然な話である。

尤も現在管理權の歸屬が明確ではないが近く道路法も公布される事であらうからその點は早晚解決さ

れる事と思ふ。

第四條の作業とは所謂道路工事計りでなく、清掃除草を初め道路修理用の材料の採取、或は道路愛護に関する宣傳、要すれば、交通の整理、交通量の調査等をも含むのであり老幼男女夫々相應の仕事に當れる筋合である。

次に第七條の修理用器具貸與のことであるが、理想としては、各自、積極的に自己の器具を持參して貰ひ度いのであるが、現在仲々困難であるから省より之を貸與してやるのが親切な方法である。然し、何しろ資材配給の窮屈なる現状及少額豫算の都合上全部に行き互る事も困難と思はれるから、縣、旗又は街村相互有無相通じて圓滑なる運用に努められん事を希ふ次第である。

而して第八條以下表彰事項にある通り名譽ある表彰金を授與せられたる向は是を以て器具の購入に努め益々斯道の爲に盡力せられん事を希望する次第である。

更に附言したいのは愛護團計りではなく道路に関する篤行者假令、單獨にて相當なる道路工事を施行したとか道路愛護に關し多額なる寄附を爲したも其の他善行美談の主は同様に表彰せられるのである。

(2) 道路愛護團及聯合會並協和會の設置

道路愛護團結成の事は前に述べた處であるが現在全國約440團の正式結成を見此の外實質上愛護團と變りのない事を行つてゐる街村は奉天、安東省其の他に相當數を算するものと思はれる。此の様な處は一時も早く正式の結成を爲し更に他に普及して頂き度い趣旨である。

全國道路愛護團數調(本年四月)

奉天	23	濱江	196	牡丹江	56
吉林	10	間島	33	北安	63

龍江 34 三江 50 計 440

(但し分會を一團と計算せり)

更に同一縣旗市内の愛護團の横の聯繫として、縣聯合會を、同一省内を通ずるものとして協會を結成して相互刺激し合ひ或は不平を許へるものも可なるべく、或は優良團の視察を行ふ等以て其の進歩を計り更に政府に對しては希望を述べ愛護團の正しき行方を研究するのが此の聯合會及協會の使命である。大體十以上の愛護團が結成されて尙且必要と認むる時に限り聯合會を結成すべきではないかと思ふ。協會に付ても同様の事が云へると思ふ。

將來は全國的の統制あるものとし日本に於ける道路改良會の如きものに迄發展させ度いと希望はあるが差當り其の素地を熟成さする事が急務である。

(3) 愛護週間の實施

是は日本内地の熱心なる縣(假令愛媛縣は春秋二期各一日を出役奉仕日と定め、秋田縣に於ては毎年8月21日より一週間を愛護週間と定めてゐる)に於て實施されてゐる所でもあり、南米のポリヴィアの如き小弱國に於ても毎年十月五日を以て道路愛護日と定め國民總動員を以て道路の愛護乃至改良に就ての事業を行ふことになつてゐる。(ポリヴィアの實例「道路の改良」誌上より)

本邦に於ても全國一勢に實施し度ひ所ではあるが地理的、氣節的條件に支障があつて今の所難しいと思はれるから省内一團を以つて一勢に實施して貰ふ事になつたのである。週間中は愛護團員は勿論其の他の團體特に學生生徒等の参加を求め次の如き事項を行ふのである。

1. 道路愛護宣傳ビラの配布ポスターの掲示

是は一般に對する啓蒙運動である。

實踐工作としては

2. 奉仕作業

イ、道路の清掃

ロ、路面の小破修理

ハ、道路修理用材料の採取(主として砂利)

而して本週間には交通部大臣を初め次長、道路司長等中央の歴々、省に於ては省長、次長等の方々に親しく實地を視察して之が鞭撻に當つて頂く事になつてゐるのであり、同時に關係職員は各地方に飛んで座談會其の他有意義なる會合を催して普及宣傳及指導をする事になつてゐる。

又宣傳は唯今の處最も主要な事項であるから新聞社ともタイアップし記者諸氏に見聞記でも書いて貰つて之を廣告すると共に天下の關心を集め度いと思つてゐる次第でもある。

(4) 愛 護 獎 勵 策

1. 道路愛護に關する宣傳ポスター圖案及標語、小學兒童綴方を廣く懸賞募集す。

是は既に實施済で、六月卅日の全國新聞一勢に次の様な廣告を掲げたから讀者諸氏は多分見覚えがあるであらう。

懸賞募集規程

近時一般交通ノ發展ニ伴ヒ道路ノ重要性ガ認識セラレテ參リマシコトハ國家經濟ノ發展上誠ニ喜バシキコト、存ジマス、政府ニ於テモ建國以來常ニ巨額ノ費用ヲ投ジテ、道路ノ新設、改築及其ノ維持修繕ニ當ツテ居リマスガ道路ノ利用者タル沿道民ニ於テモ此ノ道路ノ必要性ヲ認識シ、道路ノ愛護ニ努ムルコトハ刻下緊要ノコト、存ジマス。茲ニ廣ク道路愛護ニ關スル標語、ポスター圖案、兒童綴方等ヲ募集シ滿洲國交通ノ發展ニ貢獻セシムル一助トシタイト存ジマス。

左記各項ニ從ヒ奮ツテ應募セラレンコトヲ

1. 題 目

A、標 語

語調流麗ニシテ簡潔ニ道路愛護ノ思想ヲ表現セルモノ

B、ポスター 圖案

- (1) 道路ノ清掃、除草其ノ他道路愛護運動ノ實際ヲ表現シ宣傳的効果ヲ期待シ得ルモノ
- (2) 色彩ハ黑色共四色以内ノコト
- (3) 大サ、ケント大判半截形

C、兒 童 綴 方

- (1) 小學校若ハ國民學校ノ兒童ノ道路ニ關スル感想ヲ率直ニ表現シタルモノ
- (2) 縣、旗、市街村又ハ學校等ニ於テ施行シツ、アル道路愛護運動ノ體驗記錄
- (3) 字數一千字以内ノコト

2. 應 募 數

標 語	1人1句
ポスター 圖案	1人1枚
綴 方	1人1題

3. 賞 金

1. 標 語
 - 1等各50圓(日滿各1名)
 - 2等各20圓(同各2名)
 - 3等各10圓(同各3名)

2. ポスター 圖案

1等 100圓	1名
2等 50圓	2名
3等 10圓	3名

3. 兒 童 綴 方

- 1等各15圓相當賞品(日滿各1名)
- 2等各10圓相當賞品(同各2名)
- 3等各5圓相當賞品(同各3名)

4. 募 集 締 切

康德7年8月15日限

5. 入 選 發 表

公報及新聞紙上(8月25日)

6. 送付先

滿洲國交通部道路司監理科

7. 審査員

交通部關係者

次いで8月26日の朝刊にも三段抜一等當選標語及ポスター寫眞入りで次の如き記事を以て此の結果を報じてゐる。

「滿洲國發展の基礎、道路愛護への熱意、愛護思想普及の當選發表」

滿洲國發展の基礎を道路の發展におく交通部ではこれが建設改良に一般國民の協力を求めるため道路愛護思想普及に關するポスター、兒童作文、標語を廣く日滿に募集した結果去る15日の締切り日まで。

ポスター	384
兒童作文	412(内滿文292)
標語	12,826(内滿文5,036)

と國民の愛路思想を如實に反映し、合計13,622點に上る多數の應募に接し鋭意審査中であつたが25日各種目の當選者氏名を發表した。(新京日々新聞紙上より)(當選者氏名記事省略)

この記事で判る様に應募數實に頻しく廣告の翌日より早くも殺到し係員は實に文字通りの忙殺を極め爲に、タイピスト諸嬢は三日間の休養を余儀なくせしめられたる状況であつて特に標語總數1萬2千餘と云ふに至つては全く豫期以上の効果があつたのである。

尤も日本内地から應募された方が多數あつたのであるが、締切期限後に到達したものは之れを無効とした。其の數も2千餘に達したのであるが止むを得ざる次第であつた。

審査の方法、其の他は此處で書く余祐を持つてはゐないが審査を終了して感じた事に付き二、三述べ

てみる事とする。

(1) 標語

余りに燒直しが澤山で、其の燒直しも同文のものが又相當多く特に内地よりの應募者に限つてゐた様で。

「日毎の愛護美事な道路」

「我等の道路我等で護れ」

「護る道路に榮えゆく國土」

「燃ゆる愛護に輝く道路」

等、月並のもの、或は

「道路愛護に伸びゆく滿洲」

「各自の清掃、明るい滿洲」

等は何れも内地に常用されてゐる標語をもぢつたものに外ならない。

併し、大體次の様な優秀なるものを選ぶ事が出来たのであるが怨を云ひば、もつと漸新な表現が望ましかつたのである。

1等 「愛路の一鉄、興亞の一步」

2等 「興亞の道路、總和で愛護」

同 「協和の足並揃へて愛護」

3等 「良い道も一鉄づゝの愛護から」

同 「五族の道路舉つて愛護」

同 「護る道路に興亞の凱歌」

(滿文省略)

(2) ポスター

是は擔當者であり其の道の専門家である佐藤氏の言葉を藉りる迄もなく内地作品は技術に優秀なるが滿洲事情を知悉せずあたは、名作も實情にそぐはぬものとなり滿洲作品は之れと反對の現象を示し、何れも余り感心しない。

1等當選のものは内地作品であり乍ら、春景の風景が滿洲色豊であり且技術も優秀なる處から之を推選せられたので蓋し當然であらう。

次に小學生の自由畫は豫期せぬ處であつたが澤山の應募があつたので、之等は兒童の水準並に審査して優劣を定め夫々薄謝を呈した次第である。尤も中には大人が手傳けしたものゝ如きもの可成あつたから之等を除外した事は云ふ迄もない。

(3) 兒 童 綴 方

各擔任の先生が熱心に教へ込まれた甲斐があつて實に感心させられるものが多數あり、小供の純眞さには何時も頭が下がる次第である。道路に痰を吐いたり煙草の吸殻を無關心に捨てゝ歩くのは大人の爲に甚だ残念であると嘆き大都會の立派な舗裝道路の使用の光榮に浴してゐる人達はその様な事をするのは洋服を着て下駄を履いて歩く様なものであると教へて呉れる。

誠に同感至極であつて新京の如き澤山の公園式道路の發達してゐる所しかも工夫を凝らした街路樹を憶面も無く折つたり、木の皮を脱いだりする驚くべき蠻風を備へた人種の散見する遺憾さである。

優秀作品は公物愛護精神の涵養に資する所も大であるから他日ラヂオを通じて音讀放送を致し度いものと思つてゐる。参考の爲優秀なものを掲げて見様

(1等當選作品)

牡丹江市公立長安國民優級學校
優級二年 金 石 萬

山 道

私がまだ故里に居つた時のことであつた。

或る日曜日に、私は山向ふの叔父さんの家に遊びに行くことにした。出發してまもなく山道にとほりかかつた。

やがて坂を登りきると、道は低いみねづたひになる。何時もはうす暗い程茂り合つてゐる兩側の木立もまだ若葉だけに下草まで見えるぐらゐ明るい。しつとりとしめりを帯びた一すぢの道が足もとからうねうねと續いてやがて茂みの中にかくれてしまふ。

道は山道ではあるが新しく修繕されて居つた。傾斜もゆるやかで砂利でかためたもので幅も廣く、時々自動車を通つてゐた。其の時の氣持はなんとなく涼しかつた。

何しろ私が昨年此所を通つた時分の不便と言つたらたとへようもない。

其の時は春の終り頃だつた。じめじめとした畔道のやうに細い道で足が土にくつついて歩く事が出来ない。時には力一ぱい足を上げると足が靴から抜け出て土をふんではしまふので怒つて靴をぬいではだして歩いた。又所々の小川を渡るのは非常に不便で危険だつたので其の時私は二度とこの道を歩くまいと決心した。

その道がわづか一年後の今は小川の所にも木材の丈夫な橋がかけてあり、道は砂利なのでぬかることなど一つもないのであつた。何んとなく足がかかる氣持がよかつた。私はこの道に限りない誇りを感じた。景色もよければこわれた所もないからである。實に私の村の寶であつた。

いつかお日様は頭の上まで來た。空ははてもなく澄んで所々にちぎれ雲が飛んでゐる。

もし道路を愛護する氣持が、なつたならこの道も改造することが出来なかつたのであろうといふ事を思ふ時、くづれた所には石一つでも拾つて居きたい感じがした、そしてこれからは私の家の前の道路もきれいにしようと思つた。ふと左側を見ると小さな立札が立つてゐた。其所には「學校作業場」と町嚙に書いてあつた。「學校作業場つて何だろう! ああそうだ!」この頃我が學校の六年生がシャベルをもつて此の道を登つて來た事が思ひ出された。「さうすればこの道は六年生がこんなにきれいにしたのだな」。よし私も六年生にまけないように道路をきれいに修繕しよう決心した。そして私の胸には道路を愛護し

ようといふ氣持が一ぱいになつた。

道端の石に腰をかけてひたひの汗をふいてゐるとそよそよと吹く風につれて若葉のほひがひしひしと身にせまつて來た。

「きれいな道だ立派な道だ」こういふ道は一日中歩いたつて疲れもしない、あきもしないだろうしとつくづく思つた。

叔父さんの家に着いた時は丁度晝頃であつた。昨年よりは一時間も二時間も早く着いたやうな氣がした。

(2等1席當選作品)

新京東光尋常小學校

三女 西川喜現

道

まだ、夏休にならない頃でした。學校ではきんろうほうしの草取がありました。ところが家の前の道が車道も人道も草でぼうぼうでした。

そこでおかあさんがお家のきんろうほうしで、家の前の草取りをしませう、とおつしやいました。そうして毎日ずぶしくなつてから、家の人みんなで、草取をしはじめました。土がかたくてなかなかぬけないので力をいれすぎしりもちついて大笑をされました。妹は草をすてにくいやうです。

いく日かかかつて家の前がきれいになりましたのでおとなりの方まで取はじめました。するとおとなりのおばさんも出て來ていつしよに取はじめました。お向の家でも取はじめました。

いまでは見えるところみんなきれいな道になりました。とほる人もきつと氣もちがいいでせう。

(2等2席當選作品)

搬校尋常高等小學校

五年 北良之

道路愛護運動

此頃各地で、道路愛護運動が盛に行はれようとしてゐます。道路は大勢の人が澤山のお金をかけて、長い月日を費やして作られたたふといものであります。さうして此のたふとい道路を美くするのは僕等の務であります。道路を美くするには皆が心を合せて道路愛護といふことに心掛けなければなりません。先づ道路に紙くづや不潔な物を捨てないようにし、むやみにたんつばを吐かないように氣をつけること、又公衆の道路をいたづらして掘つたりすることなどは止めてほしいと思ひます。道路がどれほど大切なものであるかといふことは歐洲大戰を見てもわかるやうに、獨逸の如きは國きよう一帯に自動車道路をくものやうに張りめぐらして、そこからトラックに兵隊を乗せて前線へ前線へとどんどん送つたそうです。

道路は戦争ばかりでなく物を運ぶにも、僕等が歩いてどこへ行くのにもなくてはならない大切なものです。道路が美しくくりつばであるといふことは、其の國が進歩して居りつばであるといふことの現はれであり、國民の大きな誇であります。このやうなことも考へて、道路は舉國一致でますます愛護し美しくしなければなりません。

(3等1席當選作品)

佳木斯日本小學校

二年 渡邊登

みちをきれいに

「行つてまいります」とぼくはとなりの、ひとしちやんと、げんきよくあさ學校へと家を出ました。

「もうあと三十分しかない。でもけふはお天きでみちがよいから大ぢやうぶだよ」とぼくは一年生のひとしちやんをなぐさめつつなんがんだいがいの大どりを小ばしりにはしりました。

トラックやのりあいバスがものすごい音をたてて

とほりヤンチヨやマーチヨがそのまにまにひつきりなしにとほつていたのでぼくらは左がはを一れつにならんでいきました。ゆうびんきよくの前にいつた時、大きな石ころが一つころがつてゐた。するとその時一人のおぢさんがその石にかけよつたかとおもふといきなりその石をあしで「ぼん」とけとばしました、がその石はやはりみちのまんなかからのきませんでした。じどうしやのこないのを見はからつてぼくはその石をりやう手でもつてみちのすみの方へかけてやりました。ぼくは學校についてからもあさどろろの石をのけたことをおもつてうれしくてたまりませんでした。

あの石一つで人やじどうしやがけがをするかもわからない、そうしたらどんなにまんしゆうこくや日本のそんがいになるだろう。ぼくのおとうさんはいつもいかに、しゆうつちやうして、かみもひげもこじきみたいに、はやして、ようふくもよごれてかへつていらつしやいますので、ぼくらは「おとうさんはこじきみたいだな」とわらつてやりますと。

「まんしゆうこくのりつばなどろろをつくつてどんな大きなじどうしやでもこしようなしに、とほれてまんしゆうの國がりつばになるやうにおはたらきになつたのですよ」とおかあさんがおつしやいましたので、ぼくは「おとうさんおめでとう」とおじきをしました。おとうさんは

「のぼるちんだつてどろろをりつばにできるね」とぼくのあたまをなでて下さいました。ぼくらはおとうさんやおかあさんやせんせいのいひつけをよくまもり、みちをとほる時は小さいことでもきをつけてみちがきれいになるやうにつとめませう。

滿文のもの大體同様な意味合ひのものであらうから他日、適當な人に譲ることゝして之れを省略する。

2. 展覽會の開催

省内重要な個所に寫眞ポスター其の他に關し展覽會を開催する計畫で本年度は新京、哈爾濱、奉天の三大都市に開催すべく目下着々計畫を進めてゐる。

6. 各省道路愛護の狀況

以上で大體本年度以降の愛護實施要綱を述べた次第であるが、然らば現在迄の狀況は如何であつたらうか。

道路司では此の實施計畫に當り各地の狀況を詳細調査研究し、實狀に即應した無理のないしかも多少指導的事項も醗酌して如上の要領を決定したのであるから、既に述べた要綱の内容は今迄實施されつゝあつたか又は實施可能なる事のみであり、換言すれば同様な方法が既に實施されつゝある地方もあり、唯、其れが全國的普遍的、且組織的でなかつたと云ふに過ぎないのである。

康徳六年度の實績を主として各省別に大略を述べて見様。

奉 天 省

奉仕精神の觀念は文化の程度に比例して相當普及され居り11月には週間を實施し參加街村數 220 延人員 477,797 人作業道路延長 7,295,831 杆に達し誠に見るべき成果を挙げ賞金も、8千6百80圓を夫々適當に授與したのである、今後は正式に團體を結成して益々道路愛護に拍車をかけられん事を期待す。

吉 林 省

愛路思想啓蒙工作と實踐工作と兩者併行の實施策を樹て毎月1日を愛路日と定めたる外春秋2回定期作業日を定め相當の實績を挙げ特に双陽扶餘の2縣は模範的優良縣である。

龍 江 省

前二者に比し相當普及の度劣り、且其の實施方法も臨機應變式で具體的一定方針のなかつたのは欠點

であつたが個人的に道路保全に努めたる篤行者もあつて何れも表彰を受けた、今後の發展に期する所が多い。

熱河省

地理的還境は仲々普及困難の様であるが維持修繕に欠くべからざる砂利は手近に入手出来るから一度發奮するならば立所に悪道變じて良道となる事は疑はない。同省圍場縣の副縣長松本藤次郎氏は「熱さへ有れば道路の改良など易々たるものである。直ぐ傍の河から砂利を運搬して來て散敷すれば簡單である。金も多少は要るだらうが必要なものは熱である」と此の間の消息を語られた。

濱江省

此の省は現在全國第一の道路愛護に關し優良なる所である。本春三月親しく二、三の縣を巡つて來たが、未だ氣候の關係で其の作業状況は見るを得なかつたが團の組織は相當整備してゐて宣傳工作も行き互り優良街村と劣等街村との區劃は道路の除草の跡が歴然と物語つてゐたのも参考になつた。

本年度は拾萬圓の豫算を以て、更に138團を結成して、濱江省3ヶ年計畫の美を飾らうと努めてゐる

錦州省

北支よりの關門に當り、又其の接觸も多いから文化も早くより開けたのであるが往時は兎も角六年度には見るべきものがない。素地は十分にあるのであるから之れに植えつける事は他省に較べ、易い事であらう。

併し、興城、綏中の兩縣は道路に關しては仲々の熱心で興城縣の行政科長頓田氏は「私の縣では新なる道路網の計畫は全然不必要なる程普及してゐて、改良にのみ力を注げばよい、又國道と云はず、縣道といはず縣内を通じてゐる道路は凡べて自分の縣の力で維持修理に當つてゐる」と明眸を輝かせた。

安東省

愛護團として結成されたものは見ないが奉天、吉林に劣らぬ普及程度を示し昨年は張國務總理が親しく寬甸縣に視察せられ特に優劣なる者、七名に對し感謝狀を授與せられた。

而して奉仕作業の結果は豫算籽當修繕費70圓であつたものが約150圓程度と等しい効果を挙げたのは誠に偉とするに足るのである。

間島省

年々愛路思想に努めたる結果、漸く一般に於て理解しつつあり、昨年度は春、秋二回農閑期を利用して定期作業を行ひ水害時には臨時に出役し相當の實績を舉げて居る。

通化省

各縣長をして委任代行せしめるたのであが目下の處宣傳工作期であつて一部を除き見るべきものは鮮い。

三江省

相當熱心に宣傳工作を開始し愛護團50結成並木植樹の勵行等に意を用ひたのであるが現在は黎明期に當り今後の發展に期する所が多い。

牡丹江省

大體三江省程度の状況であり、21團の結成豫定の處39團の結成を見、從來の17團と併せ56團の活動的な愛護團を有する。

北安省

不利な地理的條件にも係はず、關係職員は熱心に實踐工作を續け、康徳七年度は四萬圓の大計畫を樹立して、いきまいてゐる次第であるから之れも今後に期する所が多い。

黑河省

住民の分布程度、其の他の事情は普及至難の状況にあるが目下の處、各自の關心を植え付け今後の指

針を與へたいものである。

東安省

目下準備時代であつて何等見るべきものなし。但し開拓團に於ては大いて呼應せんとするの態勢を示してゐる向もある。

興安各省

東、及南省は夫々相當なる啓蒙工作に惠念し、南省に於ては九ヶ團の結成を見、東省に於ては、本年度5千圓餘の豫算を以て更に普及策を講じてゐる。

7. 結語

以上を以て本邦に於ける道路愛護の概要を記述した積りであるが、此の事たる兎角龍頭蛇尾に陥るの弊を存し將來幾年幾十年後に朦朧愛護團が其處此

處に其の殘骸を暴して哀れを止めん事を虞る、徒らに華美な「スケジュール」に終始することなく、蝸牛の運びに似ても、除々に着々しかも健實に根を張り纏て鬱蒼たる繁茂に生長せられん事の情や切である

附記

本記は道路愛護に従事し又はせんとする者を對象して草したものであるが、菲才淺學を辦へず僭越至極な事を述し誠に汗顔の至りに堪えない所である。又執務の餘暇に急いで書いた爲に表現の不備な所も澤山ある。道路愛護の必要性を説くの餘りの過失、であれば多方の御了承を乞ふ次第である。

(康徳7. 8. 30了)

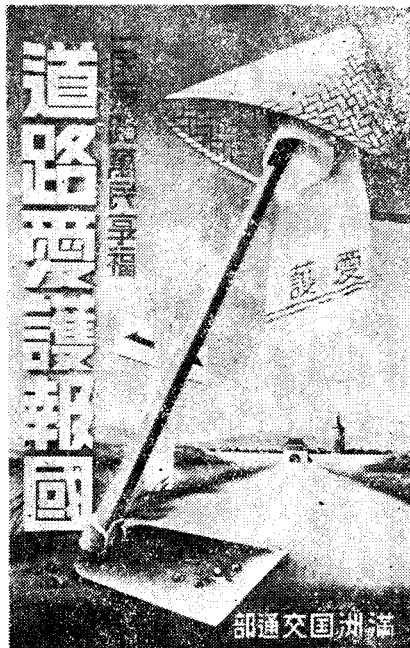
交通部道路司募集入選ポスター

等

二 等



奉天市皇姑屯國民優級學校 廣 幟



名古屋市中區南久屋町1.7 ミネカク書房 森 政 治

三 等



熊本市敷之内町6 友枝翁太郎